

北陸石仏の会々報

第 17 号
平成10年3月31日発行

編集発行

北陸石仏の会 (日本石仏協会北陸支部)

代表 久世 嘉太郎

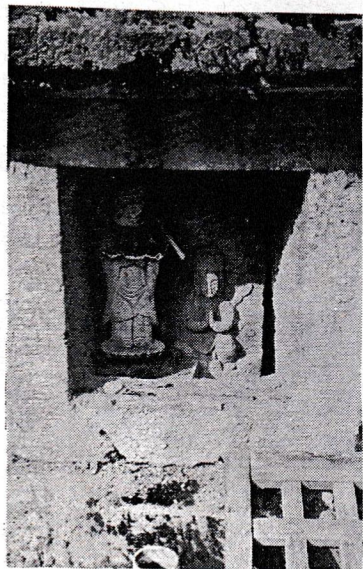
富山県砺波市太田一七七〇 尾田武雄方

〒939-1315
電話 〇七六三一三二二一 二七七二
振替 〇〇七四〇一三一 一九七四

馬頭観音とハツカイシ (平村)

中川 達

平村の下出と籠渡を境するのが小谷川。ここを国道166が通っているが、その東方、小さな橋の下出寄りに、平村には珍しい馬頭観音(写真①)がある。



かつて、この地での物の運搬は、割れた蹄をもつ動物でないと不向きで、馬より牛がよく使われていた。しかしこの辺

に「馬駐場、馬蒐、馬捨高札場」といった地名があり、又初午の行事など、馬に関した伝承などが残っていて、馬も飼われていたことは間違いない。

小谷川をはさんで南への山(旧)道が、地元の人いう「小谷峠の七曲り」で、北への山道が「姑道」。その姑道を上ったところに「右 城端道 左 山みち」と書かれた道標がある。ここ迄くれば小谷神社はすぐそこ。この奥にハツカイシ(二十日石又は廿日石)があるという。(小生、残念ながら未確認で、近く見てきたかと思っている)

雪解時期に、この石の頭が出ると、それから20日後にこの辺の雪が皆消えるといわれている。地元の人言では、昔はとなりの籠渡、下梨にもあったが、戦後の水田開拓のときになくなってしまった。今、今はこの下出と相倉のみになってしまったという。ところで、この石について、村史には記載がなく、こうしたレポートに記録しておきたいものだ。



魚津天神山善光寺三尊石仏について

北村市朗

平成九年九月二八日第一七回例会で、魚津市の天神山の石仏群を案内された。

新西国三十三ヶ所、板東三十三番、新四国八十八ヶ所霊場巡りの多数の石仏群を見学し、最終的に善光寺三尊が尊置されていた。

福井県内の山々にも同様な地西国三十三ヶ所や八十八ヶ所巡りの最終的に、或は一ヶ所に集めた場合にはその中心に善光寺三尊が尊置されている。然し今回の天神山の石仏は非常に特徴がある。表面の三尊が二段に割れている。福井県の善光寺三尊石仏には無い。



石仏高さ	93 cm
中心仏像高	30 cm
脇侍像高	22 cm
石物巾	42 cm
厚み	25 cm

天神野新村は地名が残っている

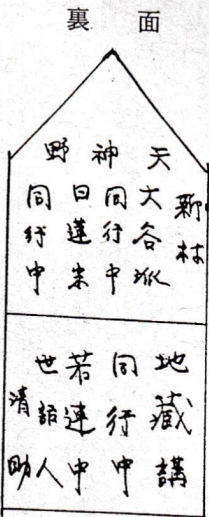
中心仏の阿彌陀如来には二段の光背があり上部の光背には青色の色彩が施されている。

この事も極めて珍しい。石像が板碑状の自然石というのは福井市の一乗谷に一例がある。一乗谷の石仏は二段になっているが三尊は一緒に下段は、本田善光公と弥生姫だ。

天神山善光寺三尊石仏の裏面が特に例をみない貴重なものだ。その理由は信州善光寺ほどの宗派も名乗っていない。但し管理は、天台宗、浄土宗、貞享二年(一六八五)迄は時宗の三宗派でしていた。時宗は天台宗に塔頭が全部幕府の命令および貞享二年に併合させられている。よって現在は大勧進の天台宗と、大本願の浄土宗が中心となっている。天神山の石仏の裏面には信州善光寺と異なる大谷派日蓮宗の銘があることだ。これは天神新村の人々の宗派ということだ、世話人の清助氏が皆を説得したことの証拠であると思う。大谷派は浄土真宗御開山親鸞上人が善光寺に百日間参籠したこともあり不思議ではないが、日蓮宗、地藏講、若連中と刻銘されていることが珍しいということだ。清助氏のことが判れば石仏が創られた年代を特定できる。

富山県には寺院で善光寺と関係のある寺は二ヶ所であるが、この様に民衆に善光寺信仰が浸透していたことから貴重なものだ。この石仏の事は信州善光寺に報告したことを付言したい。

以上



第十七回例会・魚津天神山周辺の石仏探訪出席者

◇富山県

大野猪策 小竹一夫 深山節代 加藤永子 柳沢栄司 林貞子
森本朝子 島倉巖 島倉千春 南金三 尾田武雄 中川 達
中嶋照子 平井一雄



◇石川県

久世嘉太郎 鳴 板坂
上田信子 滝本靖士 山田玉枝
南 外志雄 毛利直枝
◇福井県 小坂俊子
北村市朗 大久保まさ子

△石仏紹介V7

だいすいくぼさつ
大随求菩薩

柳沢栄司

京都清水寺随求堂に秘仏として祀られているが、これはきらびやかに装飾された木像であった。大随求菩薩は『大随求陀羅尼』に基いて作られた尊像で、極めて少ない。石仏としては、特に少ない。これは『大随求陀羅尼』を唱えれば一切の罪が消滅するという陀羅尼の誦誦の方が流行したためで、こと埼玉県入間市の蓮花院に、新潟県柏崎氏加納の清瀧寺には大随求陀羅尼塔の上部に刻まれて居る。(小豆島十八番霊場・石門洞)



(柳沢栄司)

北陸石仏の会第十八回例会案内

ご案内

◎月 日 平成十年五月十七日(日) (雨天決行)
 ◎時 間 集合 午前九時四十分 (JR福井駅東口)
 解散 午後四時 (JR福井駅東口)
 ◎参加費 五〇〇〇円 (バス代、資料代、入場券)
 昼食は各人で持参して下さい
 はがきで住所・氏名・電話・交通機関を記入の上左記迄
 締切り 四月三〇日
 〒259-1335 富山県砺波市太田1775
 尾田武雄 気付 北陸石仏の会

◎見学所 福井県吉田郡永平寺町
 イ・志比線刻磨崖仏 九体・人頭蛇身仏 一体
 ロ・曹洞宗総本山永平寺参拝

◎列車時刻

サンダーバード18号 8時23分 富山—金沢—福井
 雷鳥3号 9時03分 福井—金沢—富山
 鈍 行 8時08分 福井—金沢—富山
 しらさぎ9号 16時16分 富山—金沢—福井
 鈍 行 17時09分 福井—金沢—富山
 16時08分 敦賀—福井
 17時00分 福井—敦賀

※富山よりマイクロボスを出す予定です。

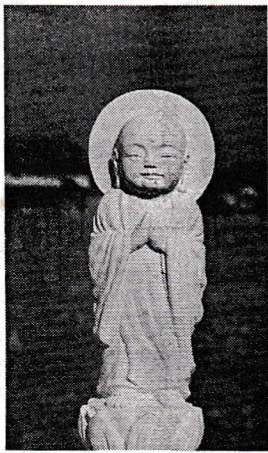
富山駅北口 午前七時発
 砺波駅前 午前七時四十分発
 金沢駅西口 午前八時二十分発
 どこを利用するかご連絡下さい。
 富山駅で乗る場合 二〇〇〇円
 砺波駅で乗る場合 一五〇〇円
 金沢駅で乗る場合 一〇〇〇円
 各交通費がかかります。

・会報が遅れまして申し訳なく思っています。
 ・北陸石仏の会の会員名簿を作製する予定です。郵便番号が五桁から七桁になりましたので、その対応でやや遅れました。同封の名簿に誤りがないか御連絡下さい。
 ・北陸石仏の会の例会も第十八回を数えることになりました。今回は十年度の総会も兼ねますので、たくさんのご出席を希望しています。
 ・「北陸石仏の会研究紀要」2号は当日配付します。

お知らせ



・北陸石仏の会のオリジナルの封筒の、不動明王を描かれた会員の彫刻家藤井治紀さんが、石仏千体を作ることの思い立たれ、写真のような優しく暖かい地藏様が出来上がりました。殺伐とした世のなかにあって、各教団の難しい教義ではない、素朴な信仰心が求められています。この藤井さんの作る地藏様は、鑑賞仏として飾っておくだけでも、心が休まる作品です。多くの方にと、一体二万円でお分けしています。一体の大きさは高さ二十八センチ、幅八センチのコンクリート製です。ご希望の方は北陸石仏の会事務局長尾田武雄までご連絡下さい。



藤井治紀さんの略歴 昭和二十三年富山県生れ。昭和四十七年日展初入選(以後十三回連続)。五十年日展受賞(以後二回)。五十六年日展会友。五十七年日本彫刻会会員。五十八年個展(北美画廊)。六十一年日本彫刻会退会。県展審査員などを経て。平成三年にカナダへ游学。平成五年に「しみみ国際彫刻キャンプ」招待作家。平成八年から九年にかけてパリに游学。